

第九回公演・動画解説資料
大蛇退治-瓶廻りの段
(解説資料)

2016年9月9日、14：30～14：50まで。約20分間の里神楽映像です。

相模流の特徴的な大蛇（おろち）の「瓶廻りの段」と建速須佐之男命と大蛇との「立ち回り」の場面のみをご覧頂きます。

八雲神詠、いわゆる大蛇退治は里神楽では、人気演目となっています。この神楽映像は、前半にレクチャー&パフォーマンスといった相模里神楽の笛の演奏があり、その後に大蛇退治のハイライト場面を演じていただきました。一部を切り取った特殊演出の神楽だとご理解ください。

○舞台の流れ

001：おどろおどろしい雰囲気が必要なので、「あしらい」の笛が入ります。八俣の大蛇が舞台の上手、下手からが現れます。

002：大蛇が舞まる中央に打ち揃い、そこから「瓶の段」の舞に入ります。

003：八塩折の酒が入った瓶を這いずりながら探し求める八俣の大蛇。

004：やっと瓶を見つけると、瓶の中の酒に写った櫛稻田姫を見て（実際にはいませんが、いると思って想像してください）、思わず後ろを振り返ります。

005：しかし、あたりを探しても見つかりません。そこで、瓶に写った姫もろとも呑み干そうとします。

006：大蛇の髪の毛が瓶の酒についてしまったため、髪を洗います。これを「大蛇の髪洗い」と言います。

007：三口で瓶の中の酒を飲み干した大蛇は、瓶の縁についたお酒をなめ回します。

008：瓶を転がし、じやれて遊びます。立ち上がりヨロヨロと千鳥足になり、とうとうその場に寝込んでしまいます。

009：そこに、やって来ましたのが足名槌命です。恐る恐る大蛇に近づき、角や顔に触れたりして大蛇の様子を伺います。

010：とうとう持っていた杖で大蛇を叩いてしまいます。

酔って寝ていた大蛇が目を覚まし、足名槌に襲い掛かろうとします。

011：しかし、須佐之男命に立ちふさがれます。これから大蛇との激しい「立ち回り」となります。

012：大蛇が地面を這いずって攻めて来る姿は、まるで本当の蛇のようです。大蛇の攻撃をかわす命の太刀さばきも特徴的です。

013：激しい争いの末、酒に酔っていた大蛇は、とうとう命の太刀に屈して

倒れました。

014：曲は、江戸の能管の「下がり端」となり、あたりが静けさを取り戻します。刃こぼれに気付いた須佐之男命が大蛇の尾を一気に切ると、曲は、江戸の能管の「早」に変わり、大蛇は、半殺しの状態で雲か霞の彼方に逃げて行き、この地に二度と現れることはありませんでした。曲は、「早」から「下がり端」となります。

015：逃げ去った大蛇の尾から立派な剣が現れます。この剣を天之叢雲剣と言い、後に三種の神器となった草薙の剣です。

016：この剣を手にした須佐之男命は、「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠めに 八重垣造る その八重垣を」と、謡い幕となります。この歌は、日本最古の歌を言われています。

○基本データ

動画名称 第九回楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演～大蛇退治（瓶周りの段） 会場撮影

動画番号 9-03

出演団体 相模里神楽 垣澤社中（神奈川県厚木市酒井）

公演会場 さいたま芸術劇場小ホール（さいたま市中央区）

主 催 第九回江戸里神楽公演学生実行委員会

開催期日 2016年9月9日（金）

撮影編集 イナヴォイス若葉会（会長 蒼谷 昭）

UP 協力 蒼谷 昭（いきがい大学伊奈学園ボランティア情報センター）

写真撮影 ソニオンフォトクラブ有志（会長 辻田勝裕）

参考資料 『第九回楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演解説プログラム』

（2016年9月9日刊行）

出 演 者 建速須佐之男命 神成信之

足名槌命 垣澤謙治

八俣大蛇（甲） 垣澤 良

八俣大蛇（乙） 信太龍也

囃子方

大拍子 垣澤 勉

笛 垣澤瑞貴

太 鼓 大貫恒文

後 見 加藤美津枝

*着付 高見進 坂本舞 小西浅

○公演協賛会社等

有限会社望月商店 有限会社ドゥクラスター 株式会社フミテック
株式会社大丸衣裳店 有限会社とらや 整体リラクワ表参道
株式会社ベル・ファンファン 白石真弓染色アート学院
JAあつぎ厚木市農業協同組合 湘北短期大学 株式会社程島商店
有限会社豆庄 株式会社福田建具 共栄建設株式会社 岩槻人形協同組合
薄井崇宏

○追記・垣澤社中の功績

第九回公演、私たちは神奈川県厚木市酒井から、相模里神楽 垣澤車中をお招きしました。私は、そのことの大変さを伝えるとき、出演者のスケジュールをまず伝えることにしています。公演当日、午前6時30分に本厚木駅に集合して、6時46分発の「さがみ68号ロマンスカー」に乗車され、なんとか午前9時前にさいたま芸術劇場（新宿駅経由で埼京線与野本町駅下車）にお越しいただいた、という事実です。

演技手さんは、それから支度をして、リハーサルへ。朝食も昼食も慌ただしく（もちろん、夕食も慌ただしい）打ち合わせをしながら、着付けに入らないと間に合いません。序開きの「寿式三番叟」からフィナーレの「寿獅子舞」までの一日は、脱いでは着付けの連続ですから本当に修羅場だったと思います。

9月9日の前日、つまり8日ですが厚木の家元の家から神楽衣裳その他の神楽用具を積み出して、午後3時過ぎには二台の自動車で劇場まで運び込んでいます。小ホールの舞台裏付近で開梱して、衣裳・道具の確認をしておられました。道具に忘れ物があったら、アウトですから懸命な確認作業がありました。

立ち会った一部の学生スタッフは、その後、劇場内で明日に向かってのミーティングを開催していました。

9日の午後8時。終演後、お客様をお見送りしてから片付けに入り、レンタカーに積み込むまでの時間がおよそ1時間余でした。さすがに、舞台を終えて、片付けて、厚木まで運搬するのは、無理。疲労困憊の状態ですから危険。そこで、垣澤父子のお二人が劇場近くに宿泊して翌朝、厚木に戻って行かれました。

私たちも翌朝には劇場にて、プログラム、チラシなどの残部を小さな日産マーチ・KAGURA9に積み込み、そしてレンタルしていたスクリーンとプロジェクターの搬出準備に追われていました。

こうした慌ただしい三日間を過ごし、軽い疲労感が押し寄せてくる中で、

Desperado が入ってきます。イーグルスです。

It may be rainin' but there's a rainbow above you

確かにこのボランティア公演は、負担度が高くて未来が描きにくいブラック
気味のボランティア活動。本当に、虹もかからず、未来が描けない公演事業だ
と思いながら、この歌のフレーズを繰り返しつつ、休息に入っています。

Desperado , oh you ain't getting no younger

9日、舞台のご神前に供えられていた「七代」という銘酒を味わいつつ、青春時代に戻っていきます。公演動画をデジタル・オーディエンスという未知の方々に何をお届けします。この動画には、あらゆる困難を克服して、垣澤社中の皆さんのが公演にご協力してくださったこと、その事実をお伝えしたいと思います。相模の神楽師魂がこの動画から伝わっていけば、嬉しいです。

(構成・文責 江戸里神楽公演学生実行委員会)